
硝煙の魔法

銅製シャベル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

硝煙の魔法

【Nコード】

N0428Z

【作者名】

銅製シャベル

【あらすじ】

魔術師、この世にあらざる力を持つ者たち。現代において彼らは結社を作り、その結社同士で世を忍び、争いあう。これは、夢も希望もなく魔法だけが有る物語。

処女作です。文章は拙いですが書き進めていくうちにレベルもあがる…ハズ！！読んでいただければ幸いです！！

R115は保険ではありません。普通に頭が弾けたり人体切断があ

ります。

プロローグ（前書き）

小説書き始めました。

よろしければ一読お願いします

プロローグ

「ぐっ・・・ハッ・・・ハッ・・・」

ステイブン・S・ドネガンは逃走していた。

彼はここしばらくクウエートで軍事作戦に駆り出されていた。

軍務の内容はいたって簡単、敵兵を見つけ配給されたアサルトライフルで撃ち抜く事だ。複数のチームに分かれ、ほぼ壊滅状態の敵兵を順調に追い詰めていた最中。

まさにその瞬間にソイツ（・・・）は現れた。

ソイツは八人からなるプロの軍人相手に真正面から立ちふさがる
と、自分の名前を告げた一人が退却をこちらに命じてきた。

こちらはプロ、おまけに八人の小隊だ。自負もあるし、自信もある。
返答は発砲で行われた。

その瞬間、彼らは狩人から獲物にその有り様を変えさせられた。

4

「止まるなマイク！その瞬間奴に・・・」

言いかけた途端に、タンツという軽い銃声と共に、逃げていた同僚の頭が弾ける。

（まただ）

彼の思考を恐怖が蝕んでいく。

（またたった一発（・・・）で・・・）

そう、先ほどから相手は一人につき一度しか銃弾を放たずに確実に殺している。

悪魔的な銃の腕だった。

（基地だ・・・）

この状況で生き延びるには

（とにかく基地に・・・）

そして基地の方角からドドンッ！という轟音が聞こえた。

「・・・あ？」

ざりっ、と悪魔の足音がした。

「お前たちの基地なら、今頃俺の仲間が爆破したところだが・・・どこに逃げるつもりだ？」

ゆっくりと、ゆっくりと彼は振り返る。すぐその悪魔の青みがかった鋼色の瞳がこちらをじっと見つめていた。

「なんなんだ…。なんなんだよっ！おまえはああああああああああああああっっっ！！！！！」

「最初に名乗ったはずだがな」

悪魔は気だるげに

「魔術結社『梟』（ふくろつ）所属アーサー・K・レッドフィールドだ」

そして悪魔は引き金を引き彼を速やかに殺害した。

第一幕

アーサー？K？レッドフィールドは傭兵である。

その戦闘能力は極めて高く、様々な国から依頼をされる程だ。
そんな最強ランクの傭兵は？？？

「トイレットペーパー？？」

スーパーマーケットで財布片手に値札を睨んでいた。

(やっぱりここは安いアメリカ製の？？？いやしかし日本製の拭き心地に勝るものは？？？)

極めて真剣にアーサーがトイレットペーパーを眺めていると

「アーサー、さっさと決めないとまたボスに怒られるぞ」

そう言っただけで話しかけてきたのはニコラス？F？エイク。彼の親友であり、専属技師だ。

「むう？？？？」

「はいはいもうこれで良いだろ、お前金持ちなんだから」

そう言っただけで適当に幾つか掴むとさっさと会計を済ませてしまう。

実際アーサーは一回の仕事でこのトイレットペーパーを1万個

程買える程度には金を稼いでいるので問題ないと言えは無いのだが

「しかしなあ、節制は大事だぞ。ほらちよっと前に流行ったじゃないか極東のmottainaiってやつ」

「良いから行こうぜ。もう俺、地獄の連続200時間勤務は嫌だよ？？？」

「あの人ホントに薬使ってもやらせるからな？？？帰るか」

だがそこで彼らがすんなり帰ることは出来なかった。

そこで女の子が路地のトタンの壁を引き剥がすようにして飛び出して来たからだった。

ご丁寧に彼女を追うようにして奇妙な格好の男まで登場してくる。

普通なら驚くなりなんなりしつつも、少女と一緒に逃げたりしてそこから物語が始まるのだろうか???

「ああ？一般人か？まあいいどうせ目撃者は始末おがっ」

妙な格好の男がごちゃごちゃ言っていたが、アーサーはいちいち聞くのも面倒だったので、とりあえず顔に銃弾を撃ち込んだ。

「ええええええええお前短気すぎだろおおおおお！？」

「いやいやニコラス、なんか始末とか物騒なことってたしこれでいいんだよ」

「いや、お前言う前にもう撃とうとしてたじゃねーか！！見るよ逃げてた女の子、助けての『た』で口と顔固まっちまってるだろーが！！！」

と、そこで件の『た』で止まっていた少女がようやく我にかえつつたらしく

「え????あの????どういことなの????」

まだ混乱が解けないようではあったがとにかく少女が言葉を発すると

「良かったな通りすがりの少女取り敢えず俺は急いでいるので帰るじゃあな（超早口）」

「え?いやちよつとまっ????」

しかしアーサーはまるで待たずに走り去ってしまう。

「あーおい！まてよアーサー！えつとゴメンね、アイツ女の子っつか女性全般と話すの苦手でさ、俺らこっという者だから用事あったら来て」

隣にいた男も慌ただしく名刺のような物を渡すと先にいった男を追いかけていくのを呆然と見送った少女はふと手の中の紙切れに目を落とす。

其処にはこんなことが書いてあった

何でも屋『梟』 社員との交渉次第で何でも(????)やります

!!!

言いたいことは色々あるがひとまず

(要相談って何でも屋として成立するの?????)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0428z/>

硝煙の魔法

2012年1月1日23時53分発行